

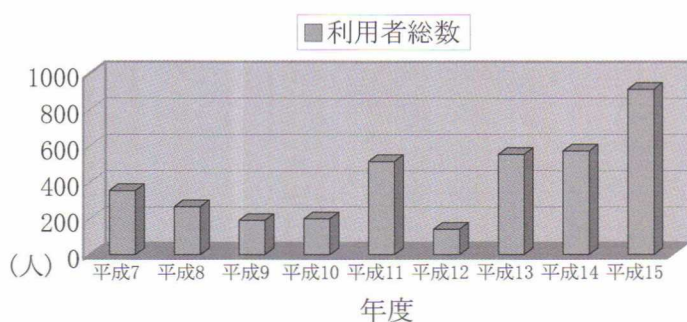
## 第2章 平成15年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

当館は、昭和52年(1977)設立以降、山口大学構内が所在する各遺跡の調査・研究を行うとともに、収蔵資料の展示・公開、また埋蔵文化財・考古学にかかわる教育活動を行ってきた。より具体的に述べると、展示・公開活動としては当館展示室における常設展示の他、年に1回から2回の企画展示、教育活動としては年に1回の市民対象の公開講座の開催、また学内の希望者に対して考古資料の取り扱い等の技術指導を行うことなどである。

平成15年度の当館利用者総数は913名であるが、過去8年間の当館利用者総数の推移を見てみる

表9 埋蔵文化財資料館利用者の推移

年度	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15
利用者総数	355	267	191	200	516	142	555	573	913



と、年度毎の多少の増減はあるものの増加の傾向にあり、近年は平均500名の利用者を迎えていることがわかる。

この背景には、近年の埋蔵文化財に対する世間の高い関心は言うまでもないが、当館が学内のみならずより広い範囲での地域連携を促進してきた結果が反映されているものと考えたい。

### 第1節 資料館における展示公開活動

#### 第19回企画展「吉田遺跡と平川の遺跡」 後援 山口市教育委員会

当館では、昭和63年度より、毎年1回から2回企画展を開催している。今年度は、平成15年11月2日から同年12月19日までの期間、資料館展示室において第19回企画展を開催した。今回は、山口大学吉田構内が所在する山口市平川地区の埋蔵文化財をテーマとして取り上げた。

展示内容は、当館が永年にわたり調査・研究を行ってきた吉田遺跡の出土資料を中心に、山口市教



写真 43 第19回企画展ポスター



写真 44 第19回企画展の展示模様

育委員会、財団法人山口県教育財団山口県埋蔵文化財センター、山口県立博物館、山口県文書館、広沢寺(山口市平川地区に所在)の協力を得て、平川地区に分布する諸遺跡の出土資料を展示し、それとともに遺跡の調査写真や解説文をパネル展示することにより、旧石器時代から江戸時代までの平川地区の歴史を学習できるものとした。

企画展開催期間中の観覧者数は225名におよび、観覧者からは、「小規模ながらまとまりのある貴重なものを分かり易く展示してあり興味深かった」「身近にこんなものが埋まっていたなんてすごい」などの感想とともに、「一つの時代をほりさげた展示も、小さな館ならではの催しになるのでは?」「更にひろく一般に資料館展示について知らせ、活用して下さい」などの意見も寄せられた。

当館では、長年にわたる埋蔵文化財の調査・研究の成果を生かし、今後とも「実物展示」を最大の特徴とした企画展を開催していく所存である。

## 第2節 資料館における社会教育活動

### 第3回公開授業「山口の歴史にふれる一考古学からみた平川一」

当館は、平成13年度より、年に1回市民を対象とした公開授業を行ってきた。この授業は、やや難解な印象のある考古学や埋蔵文化財をより身近なものに感じてもらうことを目的としたものである。

第3回目となる今年度は、山口大学吉田構内が所在する山口市平川地区をテーマとして、考古学的な視点から平川の歴史を学ぶというテーマで授業を行った。

写真 45 土器の拓本に挑戦!



写真 46 昔の生活を想像して絵を描こう



写真 47 傑作のできあがり!

授業は平成15年11月8日に行った。授業には山口市平川地区在住の市民だけでなく、市内各地から、遠方は宇部市から総勢14名の参加があった。

当日の授業内容は、午前の部では遺跡の発掘調査の方法を学び、実際の発掘調査の結果、平川地区ではどのような歴史が解明されてきたのかを学習した。その後は、発掘調査で実際に出土した土器を用いて、拓本を採る体験学習を行った。午後の部では、吉田キャンパスの北に隣接する「日吉神社横穴墓群」の見学を行い、さらに資料館展示室において企画展示中の「吉田遺跡と平川の遺跡」を観覧し、実物の遺跡・遺物から平川地区の歴史を学習した。

最後に1日の授業をふまえ、吉田構内の遺跡保存公園で「昔の人々の生活」というテーマで絵を描いた。どの絵も大変な傑作となり、無事に1日の授業が終了した。

授業を終えた参加者からは、「専門的な話が聞けてよかった」「とてもわくわくした」という感想とともに、「平川地区のことだけではなく、他の地区のことも知りたい」「土器の破片の接合作業がしてみたい」などの声も聞かれた。

今回の公開授業は、考古学および埋蔵文化財の調査方法を学び、学問的な視点から実物資料を観察し、昔の人々の生活を復元するという、我々埋蔵文化財保護に携わる人間がこれまでに学び現在実践している方法を、概略的に1日で行うものであった。しかしながら、小学生の参加者にはやや難解なものとなり、また考古学・歴史学に造詣の深い参加者からは、さらに専門的な内容を求められるなど、授業内容に大きな課題を残した。当館としては、今後とも授業内容や対象とする年齢層等の検討を行い、さらにこの事業を発展させていく必要を感じている。

#### 「山口ふるさと大学」における講演

郷土の様々な歴史を学ぶ市民団体である『山口ふるさと大学』からの依頼を受け、平成15年11月9日に山口大学吉田構内学生会館会議室にて講演を行った。受講者は7名であった。

講演内容は、「山口大学構内吉田遺跡について」と題し、過去の調査で明らかになった旧石器時代から江戸時代までの吉田遺跡の姿を、画像を交えながら説明した。その後は、資料館展示室にて企画展の観覧、吉田構内遺跡保存公園の見学を行った。

このような市民団体からの依頼は、当館の存在が学内を超えてより広範囲に周知されてきたこと示すものである。当館としても、地域との連携が今後の大きな課題・目標となるところであり、今後とも積極的な対応を行いたいと考えている。



写真 48 『山口ふるさと大学』での講演風景



写真 49 遺跡保存公園を見学

### 山口市立平川小学校における授業

山口市立平川小学校の開校130周年記念事業の一環として授業の依頼を受け、平成16年1月23日、平川小学校6年1組教室にて生徒(4年生～6年生、約30人)を対象に、「ひらかわの昔にドキドキ」というタイトルで授業を行った。

社会の授業として「日本の歴史」を学ぶ前の学年の生徒も参加していたため、授業は主に発掘調査で実際に出土した遺物を用いての学習となった。山口市教育委員会の協力のもと、吉田遺跡・西遺跡・神郷大塚遺跡・小原遺跡といった平川地区の遺跡出土資料を展示し、それらを観察し、実際に手で触れて昔の人々の生活を想像するという内容であったが、生徒からは盛んに質問が飛び交い、熱気にあふれる授業となった。

授業後には、平川小学校5年生による報道番組制作の授業の一環として、3回にわたり当館が取材を受けるなど、地域における当館の存在意義に新たな一面が加わる結果となった。



写真 50 平川小学校での授業風景



写真 51 土器にふれる平川小学校生徒

### 第3節 その他の活動

#### 「日韓交流史理解促進事業」大韓民国学芸研究士による施設見学

山口県教育委員会が大韓民国と行っている日韓交流史理解促進事業では、大韓民国の文化財関係者による山口県内の主要文化施設の視察が行われている。当館は平成13年度より視察に協力しており、今年度は平成15年11月28日に学芸研究士2名が来館した。

今回の視察者は、羅東旭氏(大韓民国釜山広域市立博物館/学芸研究士)、河炳厳氏(大韓民国福泉洞博物館/学芸研究士)である。当館は、企画展示とともに吉田構内の遺跡保存地区の説明を行った。説明に対して、両氏とも大変熱心にメモを取られていた。また、当館所蔵品の無文土器、韓式系土器等に対して、大韓民国の埋蔵文化財についてご教示いただいた。短時間ではあったが、相互の交流を深めることができた。



写真 52 展示を見学する学芸研究士